

文化財NEWS

福島県教育庁南会津教育事務所 総務社会教育課

1 鳴山城跡 県指定史跡

標高 750 メートルの愛宕山北辺部に築かれた典型的な山城です。城全体の全長は南北に 700 メートルで、山頂部の 350 メートルは急斜面、山麓部の 350 メートルは緩斜面となっており、山頂から山麓にかけて、尾根や谷間などの自然地形を利用して、土塁や門、堀などが構築されています。

現在山頂には愛宕神社が祀られていますが、長沼氏の時代には城の本丸だったようです。



④【御平庭 おひらにわ】

鳴山城「三の丸」で城内の役所があった場所です。



⑤【中腹の急斜面】

千畳敷上部の急斜面は、攻略がたいへんそうです。



②【空堀 からぼり】

深さ4m、幅14mで長柄槍の戦闘を想定した構造となっています。



①【赤鳥居】

頂上にある愛宕神社への入口。木組みの立派な鳥居です。鳥居をくぐると「侍屋敷跡」が広がります。城の直接の防備にあたる家臣団の屋敷がありました。



③【大門跡 だいもんあと】

城の正面にあたり大手門とも呼ばれます。中世の山城は石垣を持たないのので、中世から近世の過渡期の姿と考えられています。



←【イノシシによる被害】

昨年までは、それほどではなかったのですが、今年になって事態は深刻です。大門脇や堀、土塁の斜面などで、土中のえさを探すイノシシの掘り返しが見られています。教育委員会が駆除に向けて対応中です。



2 泉光寺 赤銅製鑿子 (けいす) 県指定重要文化財[工芸品]



赤銅を打ち伸ばしてつくられた鑿子で、

- ・口径 24.8cm
- ・高さ 19.4cm
- ・重さ 1.5kg。

その縁には『康永二 癸未(みずのとひつじ)五月 泉光寺』と刻まれており、康永二年(1343年)に存在した鑿子は県内でも最古の部類に入るものです。

【鑿子(けいす)とは?】

下に座布団を敷き、細い金属製の棒、または木製の細棒で縁を打って音を出します。鑿、鑿子(けいす)、小鑿(しょうきん)、鉢(金鉢)(かなまり)、鈴(りん)などとも呼ばれます。

【千楽山 泉光寺】南会津町塩ノ原

泉光寺は、浄土真宗高田派の寺院です。開基の年月は不詳ですが、弘治元年(1555年)に“源龍”という僧が中興したとされ、南北朝時代以前にさかのぼる古い寺歴をもつお寺です。「新編会津風土記」



【階段を登ると泉光寺】



【特別にお顔を拝見 阿弥陀如来様】



【説明をいただいた檀頭の平野さん】

〈巡回のご協力いただいた皆様〉

- ◇県文化財保護指導員 佐藤淳一先生
- ◇南会津町教育委員会 近藤功一さん・小山内陸人さん
- ◇南会津町 宇都宮英幸さん